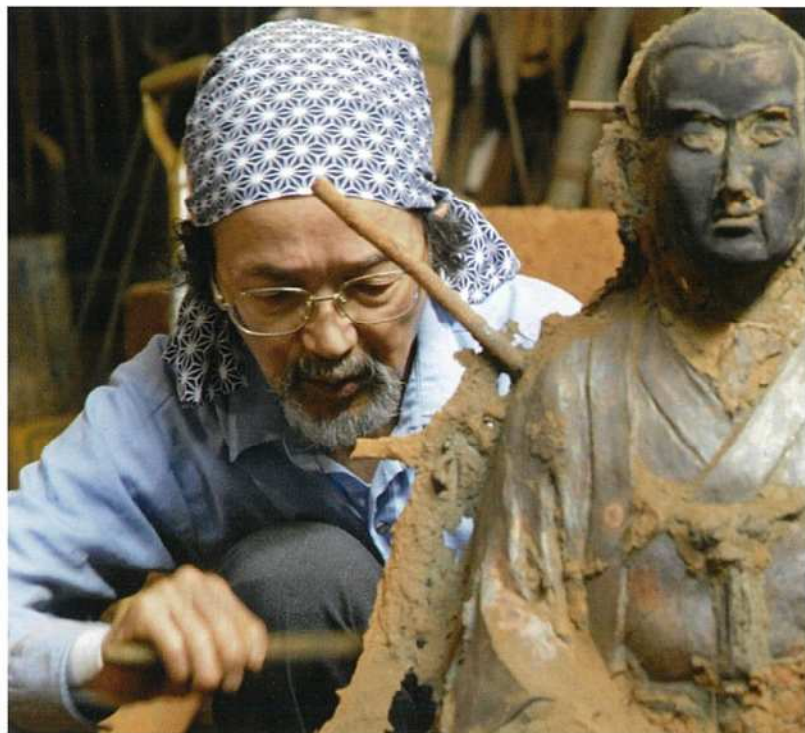


伝統に生きる

—あらかわの伝統工芸技術—



ちゅう ぞう
鑄造

かし みつる
菓子 満

(平成21年度作品)
ビデオ・DVD
カラー・30分

プロフィール

住所 荒川区西日暮里6-36-4
昭和12年(1937)東京都荒川区生れ
平成20年度、荒川区指定無形文化財保持者に認定される

菓子さんの父・十平氏は、浅草の大賀房次郎(西村和泉守派)に師事し、美術鑄金の技術を修得した。菓子さんは、高校3年の頃から本格的に父に就いて修業を始めたが、東京藝術大学入学と同時に父が逝去、昭和37年、同大学鑄金部専攻科を修了後、父が遺した菓子美術鑄金研究所を再興した。

日本古来の伝統的な技法である真土(まね)型鑄造法で、美術工芸品や彫刻などを鑄造し、仕上げまでを一貫して行う。自作のみならず、著名な作家の作品も手がける。作例として、堂崎天主堂(長崎県)の「マルマン・ペルー像」、東京藝術大学大学美術館の「山尾庸三像」(彫刻 ラクーザ・ビンチェンツォ)、「トレドの羊飼い」(彫刻 淀井敏夫)、修復作品には、坂本龍馬像(高知市)、中岡慎太郎像(室戸市)などがあり、全国で見ることができる。現在、菓子美術鑄金研究所所長、日本鑄金家協会顧問、荒川区顧問を務める。

企画・著作 荒川区教育委員会 制作 株式会社 文化工房

[用具・工具・材料]

「用具・工具」

ふるい やかまど るつぼろ
篩・タガネ・ヘラ・ハンマー・金バサミ・ペンチ・焼窯・坩堝炉（ホド）など

「材料」

あらきだつち まね しんがね
粘土（昔は荒木田土を使用）、砂、真土、和紙、ツタ、ワラ、芯金（筋金）、
はじる すばい
埴汁（粘土を水で溶いた液）、紙土、玉土、中土、荒土、素灰など



橋本左内坐像（原型は福井県から荒川区に寄贈された）

[工程]

鋳型（スゲ型）作り

- ① 押し台作り。原型を台に置く
- ② 小寄せ作り。原型の細かな鋳肌部分を正確に写し取るため、また、原型を鋳型から外しやすくするため、凹凸を埋めるように肌理（ぎめ）の細かい紙土を置く
- ③ 素灰で水分を吸い取る
*土を置くたびに素灰で水分を吸い取る
- ④ 寄せの保護と、型の合わせ目を剥がれやすくするため、玉土を付ける
- ⑤ 全体を中土で覆う
- ⑥ 型を保護するため、芯金を格子状に組み入れる
- ⑦ 荒土で型を整える
- ⑧ スゲ型の完成



鋳型（カブセ型）作り

- ① スゲ型と同様に、紙土、寄せ、玉土、中土、芯金、荒土と順に行う

中子作り

- ① スゲ型・カブセ型の両面を引き離し、原型を外す
- ② 小寄せを原型から外し、それぞれの鋳型に戻して埴汁で接着する
- ③ 金属の厚み分となる裏土をスゲ型・カブセ型の内側に貼る
- ④ 中子砂（濃い埴汁で練り上げた砂）を入れ固める
- ⑤ 中土で砂の部分で覆う
- ⑥ 芯金を入れ、荒土を付けて中子が完成する



鋳型の焼成・注湯

- ① 中子を持ち上げ、裏土を取り除く
- ② 湯（溶けた金属）を流し込む湯道を作る
- ③ 中子を筭（こうがい）で固定する
- ④ 再び、スゲ型とカブセ型を合わせる
- ⑤ 焼窯を作り、ガスで800℃まで上げ、鋳型を焼成する
- ⑥ 坩堝炉で湯を溶かす
- ⑦ 火を止め、鋳型が400℃に下がった頃注湯する



仕上げ

- ① 冷めてから鋳型を壊し、作品を取り出す
- ② 鋳流し。筭や湯道、鋳バリを取り、芯金、中子砂などを外す
- ③ 仕上げ後、おはぐろ液で着色する

「ビデオテープ・DVD」

荒川区の図書館で貸し出しています。貸し出し期間は、1回15日間です（図書資料扱いのため）。
また、ビデオテープは荒川ふるさと文化館1階郷土学習室で視聴できます。

問い合わせ先

■ 内容等に関すること

荒川区立荒川ふるさと文化館・・・3807-9234

● 荒川区ホームページ

<http://www.city.arakawa.tokyo.jp/>

■ ビデオテープ、16ミリ映画貸し出しに関すること

南千住図書館・・・3807-9221 町屋図書館・・・3892-9821
荒川図書館・・・3891-4349 日暮里図書館・・・3803-1645
尾久図書館・・・3800-5821
汐入図書サービスステーション・・・3807-8130
冠新道図書サービスステーション・・・3800-3321

● 荒川区立図書館ホームページ <http://www.library.city.arakawa.tokyo.jp/>